

旗振支部夏山登山

「雲上の花園 乗鞍岳へ」

7月3日(日)～4日(火)

瀬川 滋

3日、垂水漁港入口を予定通り朝7時に出発。須磨千守交差点で途中乗車者に乗せて、合計17名で、阪神高速、名神高速、東海北陸道を経由で乗鞍に向かう。現地の天気予報はこの日は曇り時々雨、翌日は曇りと良く無い。これは平地の予報で、標高が高いともっと悪いかも知れない。梅雨の最中だから仕方が無いか。前方の席に陣取る幹事団からは「降らなければ儲け物。もし降った場合は無理をしないで行ける所まで登り、高山植物見学とどこか近辺で温泉にゆっくり浸かろう」との基本方針が囁かれる。途中東海北陸道の「ひるがの高原SA」で昼食・休憩。案の定ここから見えるはずの二百名山・大日ヶ岳とその奥の百名山・白山はガスの中。まあ今日はこんなものだろうと畳平に向かう。

乗鞍・畳平駐車場は標高2700m。乗鞍頂上は3025mなのであと325mと頂上へは這ってでも登れる所。駐車場に近づいていくとガスが濃くなる。覚悟していたのでどうってこと無い。すぐ駐車場横にある宿舎「銀嶺荘」に入る。ガスは益々濃くなっているものの雨は降っていない。魔王岳辺りにコマクサが咲いているからと外に出る。若干時期は早かったものの道の両側あちこちで可憐な花を付けている。厳しい環境に生育することから「高山植物の女王」と呼ばれているが、その凜とした姿に全員納得。標高2761mの魔王園地まで登って引き返す。



高山植物の女王・コマクサ



魔王園地にて

宿舎に戻って有難かったのがお風呂。こんな高い北アの山小屋で入浴できるなんて至福。そして夕食。全員明日の晴天と高山植物を祈念してビールで乾杯(一部飲めない人も形だけ付き合う)。最近の山小屋の食事はどこも良くなっているが、ここは車が入るだけに山小屋の食事とは思えない程豪華。食事が終わってからは各部屋で持参した酒と肴で山談義。話は尽きない。早く眠りに着く人、読書に耽る人とか色々な人がいたが、明日の晴天を祈って眠りに着く。しかし夜中目を覚ますと期待に反して激しい風雨。明日は明日の風が吹くと改めて眠入る。

朝起き出しても風雨は止んでない。ならば3千米級の山での行動はどうあるべきかを経験する山行にすべく、とりあえず肩の小屋まで目指そうということになった。

全員雨具を付け、予め頼んであった弁当をリュックに詰めて宿舎を出発。外は視界が効かないホワイトアウト状態。こんな時には遭難が起き易いということで、リーダーを先頭に、殿軍を最後に隊列組んでガスと暴風雨の中を慎重に進む。雨風は尾根の尖った所では吹き飛ばされかねないと思われる程強くなり、ホワイトアウトもきつく前も良く見えなくなる。晴天の夏山では何てこと無いが、天気が荒れるととんでも無いことが起こるということを身を持って体験。山に行き慣れている人にとっては予め備えは十文出来ていてどうってこと無いが、そうで無い人が殆どで、山の恐ろしさとそれへの備え、そしてそうなった時の取るべき行動の大切さを皆が実感出来たと思えた時点で引き返すことを決定。山ではGOよりBACKの判断の方が難しく、リーダーの決断力が如何に重要かも体験した。



ホワイトアウトでの行軍

一旦豊平に引き返し、高山植物園に下る。ここは窪地になっているためか風雨は少しまし。ガスがかかっていて全貌が見渡せない中、2班に分かれて木道を進んで鑑賞。木道の周りは池塘もあって、クロユリ、ハクサンイチゲ、ミヤマキンポウゲ、アオノツガザクラ、イワカガミ、ショウジョウバカマ、チングルマ、コケモモ、ミヤ

マダイコンソウ、ミヤマキンバイ、ミツバシオガマ等々高山植物が緑の葉の中に白・黄・ピンクと精一杯自己を主張している。空が青ければもっと映えたであろう。中でも「恋の花・クロユリ」の群落は晴天でないため花が開いていなくて地味だったが、点々と黒く頭を下げている姿に全員声を上げる。幾つになっても恋は憧れということか。約1時間高山植物を堪能した後に駐車場に戻る。バス停前の休憩所に入るとストーブが暖かく迎えてくれた。そこで全員豚汁を頼んで朝食。身体が芯から温まりホッとす。



ハクサンイチゲ・



イワカガミ



恋の花・クロユリ

朝食後時間がたっぷりあったので平湯温泉に行こうということになり、バスで向かう。頂上まで登ってないので汗はかいていないが、思いきり冷えた身体に5つある露天風呂から自然の癒しがたっぷり感じられ、ゆっくり身体を温め、休むことが出来た。全員とてもリラックスして満足。平湯からの帰途、カラオケでもと試みるが生憎バスの装置が故障していて取り止め。途中昼食休憩して、静かな車内で殆どが居眠りを怠ぼる。幸い渋滞にも会わず、全員無事神戸に帰り着いた。

以前は7月後半に行われていた夏山行事、諸般の事情でここ数年は7月前半に行われるのが恒例となっていたが、来年からは見直そうかという意見も出ていた。しかしそれにしても今回の山行は、山は晴れだけでない、荒れた時にどうなるか、そうなった時にどう行動したら良いかを体験出来た貴重な場になった特筆するものであった。



全員集合